北海道医報
ISSN 0913-0217　2008.9.1. 第1080号
発行人　北海道医師会長　長瀬　清
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1部 250円

# 節風季

## 財務省の内幕

情報広報部長　藤原秀俊

北海道医師会の役員として道外へ月2～3回出張する。道外出張時の唯一の楽しみは、往復機内で読書を楽しめることである。今回は話題の『さらば財務省！』を旅の友とした。この題名には聞き覚えがあった。数年前（正確には2003年）『さらば外務省！』という、前駐レバノン特命全権大使天木直人氏の著書を購読した記憶があった。天木直人氏の『さらば外務省！』では、「小泉首相と売国官僚を許さない」と言うものであったが、果たして『財務省！』「官僚すべてを敵にした男の告白」の内容はいかなるものか、大変興味深いものがあった。

『財務省！』は内閣参事官であった高橋洋一氏が出身の財務省を切り捨て決別する内容であるが、全体を通じ財務省官僚の無能力さを暴露し、上司であった竹中平蔵氏を称賛している。財務省官僚は官僚中の官僚と言われ、東大法学部卒のエリートが集まるところであるが、その官僚ぶりが見事に記されている。

内容は、法学部出身者が財務省という（彼らが苦手とする）数字を扱っていることの矛盾、上げ潮派と増税派（財政タカ派）の確執、霞ヶ関埋蔵金、官僚の国内向け発言と国外向け発言の相違、国民や無能な担当大臣を欺く官僚による将来予測、御用学者ばかりの審議会、日銀と財務省との確執など中々興味深い。

中央省庁の官僚は（我々が考えている通り）「国庫にいったん入ったカネは全て自分たちのものだ。使い道を決めるのは自分たちで、他の者には手を一切触れさせない」とほとんどの者が思っているとのことである。それが霞ヶ関埋蔵金に繋がっている。埋蔵金は『財政融資資金特別会計27・2兆円、外国為替資金特別会計17・1兆円、そのほか、労働保険特別会計6・2兆円、国有林野事業特別会計4・5兆円、空港整備特別会計2・3兆円、自動車損害賠償保険事業特別会計1・3兆円などおよそ50兆円ある。例外は年金で破綻寸前』とのことである。

『財務省！』には、社会保障について記載されている部分が極めて少ない。『2007年10月17日の経済財政諮問会議が提出した試算（財務省作成資料）に関して（この試算が財政タカ派の増税論の拠り所となっている）、試算には四つのトリックがあり、初めに計算期間がモデルとして計算できる5年をはるかに超え18年間という長期試算を求めている。第2点として歳出の増え方にトリックがあり、この18年間に社会保障以外の歳出までもが増加すると仮定している。第3は名目成長率の低さ、第4点は金利の設定』社会保障に関する記載は以下の部分のみである。ここに全文を紹介する。『そもそも社会保障は歳出のうち三分の一にすぎない。残りの三分の二にしても、公務員人件費や、無駄があると指摘される公共投資などを伸ばそうとしているのだ。無駄な歳出を徹底的に削るのが財政再建の第一歩ではないのか。私の試算では、社会保障は5年間で伸ばしつつも、他の歳出を削減することによって全体の歳出を抑えることが可能だ』

小泉・安倍政権の中枢を担っていた高橋氏ではあるが、時の政権では社会保障に関してそれほど議論がされていない様子が垣間見ることができる。無論文章全体の構成から省略したことも十分考えられるが…。

8月1日福田総理大臣は電撃的に内閣改造を行った。上げ潮派は入閣せず、増税派の麻生太郎・伊吹文明・与謝野馨・谷垣貞一氏らが党三役や閣僚に就任した。平成21年度までは増税はないと思われるが、この内閣によってある程度今後の方向性が決まることは否定できない。上げ潮派にしても増税派にしても、官僚に欺かれることなく、国民に「安心と希望」をもたらす政策が望まれる。